

# 夢舞台51年終幕

東海地方の能狂言などの古典芸能の拠点だった熱田神宮能楽殿（名古屋市中熱田区）が10月、閉館する。55年に地元財界や能楽愛好家らの基金により建設されたが、老朽化などを理由に51年の歴史に幕を閉じる。地元の能楽師や狂言師らのおこがれの舞台でもあり、23日には市民団体が「ありがとうコンサート」を開いて別れを惜しむ。

（松永佳伸）

能楽殿は鉄筋コンクリート2階建てで、延べ床面積約1100平方メートル。同じ年、名古屋城に新しく能楽堂が完成し、客席は354席で舞台はヒノキ造り。鏡板には前田青邨さん監修の「老松」が描かれている。

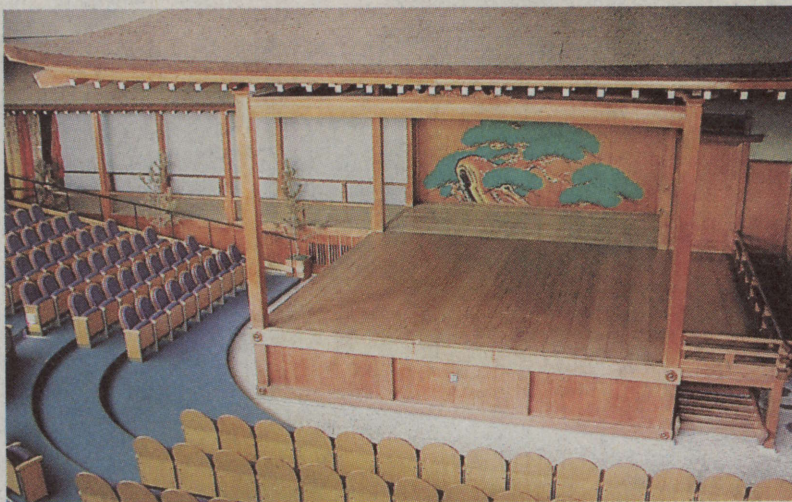
同市内では初の能楽舞台で、「芸どころ名古屋」の古典芸能を長年にわたって支えてきた。狂言師の和泉元彌さんや野村派の野村又三郎さんらも舞台に立った。

97年には消防法上の問題もあり、約1億円をかけた老朽化が激しく、改

最近では雨漏りや空調などの老朽化が激しく、改

## 熱田神宮能楽殿が来月閉館

## 市民、感謝こめ演奏会 23日



修費用が膨大なこともあり、10月の舞台を最後に閉館することになったと

いう。能舞台は、三重県伊勢市の皇学館大学に無償譲渡され、移設される予定だ。

熱田神宮文化課の佐竹俊郎課長は「残念だがやむを得ない。これまで利用していただいた人たちに感謝しています」。

閉館を知った市民らが、実行委員会を7月に設立し、感謝の意味を込めてコンサートを企画した。23日午前10時と午後1時の2回。日本舞踊の神谷あけみさんやバイオリンニストの小倉渉さんらが出演。日本の伝統文化とアフリカのパーカッションやインド舞踊などの融合を図る。

当日は、児童養護施設や障害を持つ子どもたち約50人を招待する。入場無料だが、当日、開催費用などの寄付を受け付ける。問い合わせは、ありがとうコンサート実行委員会の石浦さん（052・681・3155または090・4155・6132）へ。

また、能楽協会名古屋支部（052・841・4632）も10月23、26日にお別れ公演を計画している。23日を除く3日間は、若手やアマチュアの能楽師が舞台に立つ。観覧無料。

51年の歴史に幕を閉じる熱田神宮能楽殿